



■ 龍ヶ池揚水機場（豊郷町）

近代農業発展の立役者



龍ヶ池揚水機場の建屋＝いずれも豊郷町石畑で

豊郷町の北東部、雄大な鈴鹿山系を望む、風光明媚な水田が広がる中に、レンガを積み上げた特徴ある煙突を持つ建物があります。そこが、今回ご紹介する石畑の「龍ヶ池揚水機場」です。

豊郷町の地は、稲作に適した肥沃な土地で、現在に至るまで米作りが主要な産業です。今でこそ安定した収穫がありますが、かつては水を巡る大きな苦勞がありました。

石畑を含む周辺の田は、平地の上、水利に恵まれませんでした。犬上川一ノ井堰から水を引いています

が、支流であるため、水量も限られました。そのため、下流の豊郷には満足に水を引くことができない状況でした。

そんな中、明治42（1909）年、大干ばつが起こり7月10日から8月27日まで一滴の雨も降らなかったそうです。お米を育てるの

に一番水が必要な時期なのです。それを思うと、17年前の今日、恵みの雨を得た地域の皆さまの喜びは大きなものだったことでしょう。

そこで、石畑と四十九院の村人は、石畑区長の村岸峯吉さんと四十九院の藤野宗次郎さんを中心に村長の

7代目伊藤長兵衛さんの許可を得て、当時世界で最も優れていた「コンケロール式離心動ポンプ」という揚水蒸気ポンプを英国のアーレン社から購入されました。綿密な地質調査を行い、工事が始まりました。

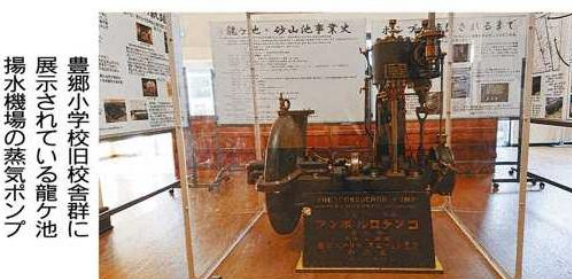
二つの地域は総出でかがり火を焚き、夜を徹して井戸を掘り進め、ポンプの試運転をすると吐水管から豊かな水が噴き出てきました！村人たちの万歳の声は鳴りやまなかったそうです。

石畑の龍ヶ池揚水機場と四十九院の砂山池揚水機場は、以降、周辺の田に水を満たしました。地下水をくみ上げ、かんがい用水とした両区の事業は画期的で、全国から見学者が相次いで訪れたそうです。

龍ヶ池揚水機場は2024年9月に、県内で初となる世界かんがい施設遺産に登録認定されました。現在は、ポンプの老朽化のため使用を中止していますが、修理される予定です。100年以上前、近代豊郷の発展につながった、この事績を知っていただけたらうれしいです。

（豊郷町観光協会・野村 悠）

【アクセス情報】龍ヶ池揚水機場へは近江鉄道豊郷駅から徒歩約17分。車の場合は、湖東三山スマートインターチェンジ（IC）から約10分。



豊郷小学校旧校舎群に展示されている龍ヶ池揚水機場の蒸気ポンプ

